

## 熊本地震における下水道 BCP の有効性と課題に関する調査

調査研究年度：2016年度

地震・津波対策

固有研究

### 【研究の背景と目的】

2016年4月に発生した熊本地震により、下水道施設も大きな被害を受け、被災自治体では下水道機能の維持・早期回復に向けた様々な活動が行われた。

本調査では、各自治体が作成している下水道BCPをより実効性のあるものにするための情報提供を行うことを目的とし、熊本県内の自治体を対象に、熊本地震における「非常時行動計画などの対応状況」、「被害などの発生状況とその対応」、「下水道BCPの有効性と課題」、「下水道BCPを策定する自治体へのアドバイス」などについてアンケート調査を実施した。その後、比較的下水道施設の被害が大きかった自治体を対象に、前述のアンケート調査結果を基に、より具体的な行動状況などの詳細を現地でヒアリングした（表-1）。

表-1 調査実施概要

アンケート調査	
対象	熊本県内31自治体
調査内容	下水道施設の被害・トラブルの発生状況
	防災拠点およびライフラインの状況
	下水道BCPに基づいた非常時行動などの状況
	下水道BCPにおいて、役に立った点・見直しが必要な点
経験・教訓を踏まえたアドバイス	
ヒアリング調査	
対象	熊本県内12自治体 (下水道施設に被害を受けた自治体より任意に抽出)
調査内容	アンケート調査結果の詳細ヒアリング (具体的な行動状況など)

### 【成果】

#### ○調査結果

調査結果より明らかとなった熊本県内自治体における策定済み下水道BCPの課題とその対応案を図-1に示す。アンケートおよびヒアリング調査で、体制の不備による課題(下水道事業以外の優先業務に人材を割かれ、想定外の人材不足や指揮命令系統の崩れが発生)が最も多い意見として挙げられた。このため、策定済み下水道BCPを地域防災計画などの上位計画を踏まえ、実状に即した計画に見直す必要があるものと考えられる。また、災害時において適切な対応や行動を行うため、先進的な取り組みや、過去の災害時における対応などを参考に、目的を明確にした訓練計画を立案し、研修や訓練などの取り組みの中で段階的に改善していくこと事が実効性の高い下水道BCPとする上で重要であると考えられる。

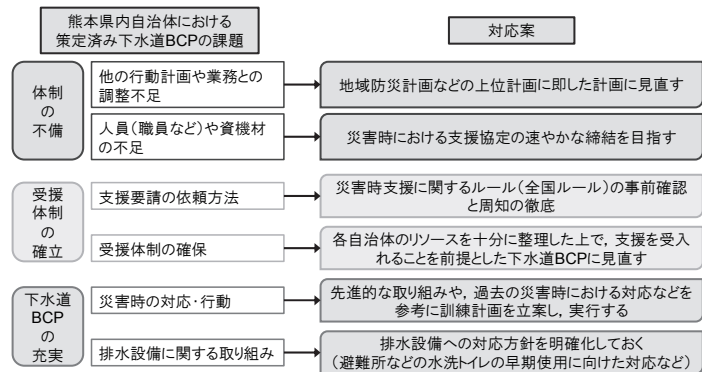


図-1 策定済み下水道 BCP の課題とその対応案

#### ○下水道機構 HP での公開

アンケートおよびヒアリングの調査結果は、報告書として取りまとめた上で、全国の自治体が下水道BCPを策定・ブラッシュアップする際に活用できるよう、下水道機構のHP上で公開した。

### 【特徴】

本調査では、熊本地震における被災自治体を対象としたアンケートおよびヒアリングをとし、策定済みBCPの課題を抽出し、改善に向けた対応案を資料として整理した。また、本調査結果が広く全国の自治体で活用されることを目指し、成果を下水道機構HP上で公開した。

報告書 URL : <http://www.jiwet.or.jp/kumamoto-bcp>

報告書(本編): 約200ダウンロード, 報告書(概要版): 約500ダウンロード(平成29年4月末時点)

### 【謝辞】

本調査を実施するに際し、熊本県様をはじめ、多くの自治体の方にご協力をいただいた。ここに記して、深甚なる感謝の意を表す。

※ (公財)日本下水道新技術機構

問い合わせ先: 研究第一部 内田 勉, 田邊 信幸, 菊川 哲生【03-5228-6597】

キーワード

熊本地震, 下水道 BCP, 実態調査